

弘前市総合計画審議会議事概要		
日 時	平成26年2月18日（火） 10時00分～12時00分	
場 所	弘前市立観光館 2階 研修室	
出席者 （22人）	委 員 （17人）	檜楨会長、村松委員、生島委員、阿部委員、齋藤委員、淀野委員、三上（弘）委員、清野委員、成田委員、工藤委員、北村委員、佐藤委員、福土委員、山本委員、青山委員、名越委員、三上（隆）委員
	事務局 （5人）	経営戦略部長、行政経営課長、行政経営課長補佐、行政経営課総括主査、行政経営課主査
会 議 概 要 1 開会 2 議事 （1）前回議事概要について ① 資料1に基づき事務局から説明した。 → 特に意見がなく、了承された。 （2）（仮称）弘前市経営計画（案）第3章「2. 将来都市像の実現に向けた戦略」について 資料2-1～2-3に基づき「2. 将来都市像の実現に向けた戦略」の構成、政策体系の概要、戦略体系（案）について事務局から説明した。 ○ 主な質疑等の内容は以下のとおり。 □ 胃がんの検診が出ているが、肺がんと大腸がんの死亡率が高い。肺がんには、禁煙が効く、禁煙への取り組みを強化していただきたい。いろいろ難しいが、公共の場などでの副流煙の問題など、禁煙対策、禁煙運動を徹底的に行なって欲しい。 前回話したが、弘前は人にやさしくない交通環境である。住んでみたいまちであることを目指すなら、交通マナーを徹底してほしい。根本から変えなければいけない。歩道が整備されていないなどは、狭い土地で仕方ないが、マナーは教育していける。 ⇒ 健康教養のなかで、禁煙マナーの向上を目指したい。くらしづくりの1ページ目にある。 禁煙の問題については、今のお話のとおり、健康づくり推進課の計画もあるので、総合計画に盛り込むかどうかは、担当課と協議して進めたい。 交通マナーについては、1%システムでスマートドライバーという取組もある。市として行うか、市民が行うかの面もあるが、検討していきたい。		

□ とはいえ、交通マナーは一向によくならない。禁煙についても、喫煙率が高い。秋田県での脳卒中予防対策として重点的な減塩運動などに取り組んでいる。喫煙率も下がった。結果が伴う取り組みをおこなってほしい

□ 子育てするにしても、働く場がなければいけない。最終的な雇用対策の位置づけを教えてください。今は検討中であっても。

⇒ 雇用政策は産業政策であると思いますが、人口減少対策という面から成果を出していく、直接的な支援をしていくというなかでは、産業政策に雇用対策としても、漠然としている感じがある。

他に、大学にたくさん一旦は入学するが、卒業で減らさない、卒業した学生の受け皿がないか。あれば、人口は減らない。そういったものを大学と連携していく必要があるのではないかとということもある。弘前の大学に入りたいと思う学生を増やし、そして、その人たちが出ていかないという枠組みがあれば人口減少対策に効いてくると思っている。

□ 弘前学院大学の話が中心となるが、現状、定員を超えるところも割るところも学部によってまちまち。実際、通学するのは、市内からというものは3割程度である。他は、近隣市町村からであるので、その人たちは、弘前に住むことを前提としていないということである。しかし、市長も良く言うように、交流人口の増加という面もあり、学生も、弘前市でバイトもしているし、街に関わっているという意識を持っている。雇用に関しては、おっしゃる通り、受け皿があれば、良いと思う。

□ 雇用に関して、弘前の経営計画に関しては、今お話があったとおり、雇用の問題が大切であるが、その前に、まず、産業体系がどのようになっているか分析をし、弘前の弱いところが何か、それに対してどう取り組むのか、どの分野に創業、起業を促すのが大切である。誘致については、今の時代は2次産業が大事。しかし、データとして弘前市の産業体系を分析しなければ。我々が要望している弘前市産業振興計画を策定して、基礎データをあつめ、全体（観光、農業、商工業）をとおした見方をしなければ、雇用の議論まで進めないなので、お願いしたい。

⇒ おっしゃるとおりである。今回の計画についても、なりわい戦略の、商工政策のなかで、弘前の商工業の将来を見ていくということに取り組んでいる。しかし、これは農業・観光はまだであるが、その段階まで来ている。

それから、データについては、重点プロジェクトのなかで、市に集まるデータ等の分析をしっかりとこない、市民にも活用してもらおうということを考えている。これは新しい取組である。

□ 私は、計画をつくって、基礎資料をしっかりと整えて、経営計画のなかで、産業計画に取り組むということが見えてくれば良いと思う。弘前市の産業の弱いとこ

ろが分からない。いろんな、データを整理しているが、商工会議所に届かないので、活用できない。

- 今の起業、産業と少しずれるかもしれないが、親の立場から言うと、弘前にとどまってもらいたいという想いと、弘前に働き先がないという矛盾がある。

例えば、育児に自信のない人の割合というものがあるが、育児に自信のあるという人はいないのではないか。家庭教育への支援というものが無いように感じている。勉強が好きだと思ふ子どもの割合を増やすというものがあるが、好きな子どもはあまりいない。勉強をするとどうなるのか、ということを家庭教育で教えていかないと、最終的に地域の人間として、育っていかない。弘前人を育てるのであれば、家庭教育が大切である。

市民会議で住職さんがいたが、その方が、弘前をどういう風にしたいかという問いかけに「死にたいまち弘前」ということを言っていた。最後を弘前で迎えるということも面白いと思う。

- ⇒ 家庭教育というのは、いま聞いていて、なるほどとおもったのですが、どういうイメージのものか。

- 成人教育というものがあるが、ヒロロに遊び場があるが、子どもが遊んでいるときに親が子育てのお話をきいて、保育に関するサービスも聞けるといいものもあるが、親一人一人の子育て観というか、教育力のアップというものを育てる必要があるとおもう。

- 弘前大学の教員と子育て教育に関する受託研究をしているが、弘前市の孫育て子育てというものについて、アンケート調査をしたりしているが、今の家庭教育について、子育てをしている今の世代だけではなく、次世代、次に子育てをする世代も大切であったり、おじいちゃんおばあちゃんとの認識のずれもあったりしていると思っている。地域課題ではないか。

家庭教育は家の中だけのことと捉えようと介入できなくなってしまうが、地域とのかかわりをもたせることによって、まちぐるみで子育てを行うという環境になるのではないか。

それから、指標として、講座に何人参加したかと言うものは身にならない。もっと、講座から発展して、参加者がサークルをつくって活動を始めたとかということの方がよく、参加者は行政側の話でとどまっている。家庭教育は地域ぐるみの問題である。

- 家庭教育というのは、人育てである。山形市の家庭教育を研究するということで、当NPOも今ヒアリングを受けている最中である。全国的に家庭教育に目が向いているのは事実である。ヒロロの話もいいが、既に、子育てブックをつくっているが、一人一人がどう子育てをするかという考えも大事。

高校生とも関わっているが、将来の話ばかりしても、今の高校生はイメージが出来ないという話を聞く。それが現実である。高校生が実際、まちづくりイベントに参加したり、子育て体験をしたり、弘前の街が楽しいということを経験してもらえば、弘前に帰ってくる子ども達もふえる。それが家庭教育に繋がってくると思う。

- 雇用と家庭教育について、実際私も子供がいるが、現状、学校に行って、親同士があったとしてもみんな他人である。家庭に来ました、そして、家庭に来て3世代が住んでいても、それぞれが別個に自分の生活を営んでいる。そういう現状である。地域でどう子育てするのか、学校教育、家庭教育、くらしづくり、ひとづくり、そういったものが、和となって検討していけるようなもの（計画）になってもらいたい。

施策の中でいろんな事業がありますが、都市環境に弘前城本丸石垣補修や大石武学流とかあるが、私自身文化財関係の仕事に携わったことがあるが、作る人、直す人、見る人はいるが、その技術を教える人が弘前にいない。みんな、中央から連れてくる。人づくりにもつながるし、くらしづくりにもつながってくる。

- 福祉と健康について、人口減少のなか、高齢者が増えるのは避けて通れない問題であるが、小学校、中学校レベルで、教育として取り組んで行かなければいけない。例えば大鰐では小学校から認知症のことを教えて、地域でサポートしていく必要性を教えている。また、孤独死の問題も懸念している。安心安全ネットワークの事業も動ける人がいないという状態もある。近所に身寄りがない場合が多い。見守りだけではなく、実際動いて対応してくれる人がいなくなっている。そういうなかでも、ケアマネージャーという人がいるが、ケアマネージャーだけではやりきれない。行政も巻き込んで話が出来る環境が欲しい。孤独死についても、町会等を巻き込みやさしい街にしておく必要があると思う。

- コンベンションから出席しているが、弘前の観光というのは他市町村に比べては良くやっているというほめ言葉もいただいている。しかし、実際は、受入環境について、例えば多言語化などは進んでいない。始まったばかり。市長さんもインバウンドということで話しているが、計画事業として載っているが、あえてここで、焦点を絞ってインバウンドの受け入れ対策を強化していただきたい。

⇒ 観光については、確かに弘前は観光都市と言うイメージであるが、消費が増えているかというとは確かに言えないし、震災以降V字回復したといわれているが、他地域に比べて特に良かったわけでもない。そういったことも含めて、観光振興部に伝えてはいる。外国人観光客の宿泊者数については、青森県に5万人来ているのに弘前には5千人しか来ていない。しっかり取り組んで行く必要がある。また、観光消費については、今年出口調査をしている。つまりは、宿泊して、お金を使ってもらおうということが大切であることは認識している。しっかり取り

組んで行きたいと思いつている。

□ 石場旅館などに泊まった外国人に禅林街に行ってもらうなど、そういった対応（おもてなし）の向上が大切である。

□ その通りで、おもてなしのところが大切である。また、函館と違って、弘前は宿泊するところがない。根本的な対策が必要である。

⇒ 今の宿泊については、岩木山の嶽温泉なども強化する必要があると思いつている。

□ たとえば学会を開催するにしても、会場がない。全て青森でやることになってしまう。学会が来れば、来た人が平均4～5万円はお金を落としていく。そういったことを踏まえ、学会開催すれば、3億円くらい経済効果があるという話もある。

⇒ 県でも補助を行っているし、市でも今年からやっているが、学会の話は認識しているが、開催しても宿泊場所の問題もあるし、悩ましいところである。

観光の収益性が上がって、さくらまつりやねぷたまつりで年間の8割の収益をカバーできるくらいまでの産業構造になれば、宿泊場所も増えていくということにもつながると思いつている。

□ 年間を通して観光するコンテンツはあるが宿泊場所がなく他地域にいつてしまう。

□ この話は、さきほどいつたようなこととおなじであり、産業構造計画を策定して、弱みと強みをしっかりと見て全体像をつかんで実施してほしい。

□ 先日、オーロラを見に行つた。オーロラーは夜ですよ。ですから、夜の見る場所があれば、宿泊する人も増えると思いつている。岩木山に沈む金星の姿なども美しいし、どこかで、夕日が美しい場所をウリにしているところもある。そういつた、夜の観光をやっていくことも大切である。

□ 例え、空き家対策というものがあるんですよ。特に、文京町あたりも空き家が多くて、空き公共施設などもあるが、人口減少社会のなかで、ストックということも言えるが、その活用ということも視野に入れていかなければいけない。

□ ひとつづくり、くらしづくりというものがあるが、一番ネックになっているのは貧困問題であると思う。しかし、貧困問題は、市役所がどう取り組んだとしてもどうこうなるようなものでもない。しかし、弘前を把握するうえでは、弘前の貧困率というものを見ていけるように指標化していただけないかと思いつている。

それから、細かい話になるが、市民評価会議の委員長をやっているが、指標については、その成果をどのように数値化して反映させていくかということが難しい。例えば、アンケートなどもそうである。アンケート結果の反映が難しいのではないか。アンケート方法についても郵送のみで、誤差が大きいのではないかと思っている。アンケート結果に対する行政と、市民評価会議との受け取り方の相違があった。その点を注意していただきたい。

※ 次回の予定について説明。

3 閉会